



先人の温もりが息づく 九頭竜川河口の港町

その奥に井戸・洗い場、湯殿、便所と続く。また、右手は居室部分となっている。「とおり」の奥は、蔵、河戸（河岸の船着場、現在はない）へと続いていた。昔、三国湊の河岸には同じような造りの家がずらりと建ち並んでいたという。

「第2室戸台風の時にはここまで水に浸かった」などと思いを語るのは、子供の頃からこの家を知っている近所の人。蘇った名家には懐かしさを感じて住民も多く集ってくる。

古き、よき面影を
今に残す街並み

三国駅から九頭竜川河口の周辺にかけては、昔の面影を残す街並みがいくつか残



えっせる坂のオブジェは三国町が町おこしとして取り組んでいる「トリックアートコンペ」の作品。見方によって変化が。



めがね橋は1913年に建造。レンガ積みアーチの内部は、レンガがうねるように組み合わされた「ねじりまんぼ」という希少な工法が用いられている。近く、国の文化財に登録される予定。

ローカル線で
ゆっくりと巡る

えちぜん鉄道三国芦原線の終点三国港駅から三国駅まで、一駅分だけ乗ってみた。駅を出るとすぐにレトロな雰囲気のがね橋をくぐる。久しぶりに見る車窓からの風景が新鮮だ。

蘇った名家に
人々が集う

今年5月に整備オープンした旧岸名家を訪ねた。材木商を営んでいた岸名家の当主が代々住んでいたこの町家は、長い間空き家になっていたが、昨年度県の「歴史の香る建造物保存・活用事業」を利用して、三国町が整備復元した。幕末から明治にかけて北前船の寄港地として、また、河川舟運による物資の集散地として栄えた三国湊の町家の姿をよく残している。中に一歩入ると「とおり」と言われる笏谷石を敷いた通路が奥まで伸びている。この通路を挟んで、向かって左が開け裏、かまどのある台所。

三国駅で降りてすぐのえっせる坂を上ってみた。エッセルは明治時代に三国突堤を設計したオランダ人技師で、彼の子エッシャーはだまし絵で有名な版画家。えっせる坂にはだまし絵ならぬ、トリックアートのオブジェも見られた。

INFORMATION

瀧谷寺



永和元(1375)年に創建された三国町最古の寺院。境内には鎮守堂(国指定文化財)、観音堂などの建造物があり、宝物殿には貴重な文化財が保管されている。

みくに龍翔館(郷土資料館)



明治時代にオランダ人技師エッセルが設計した龍翔小学校を復元した五層八角の外観。北前船や三国ゆかりの文学者などの資料を展示紹介している。



橋の先が丸間藩で出村遊郭を中心とした歓楽街があった。



三国独特の「かぐら建て」様式の旧岸名家。2階には、三国町ゆかりの文化人や、岸名家の祖先が創設した俳句結社の資料も展示されている。